

平成28年度 組合資料収集加工事業

全国中央会では各都道府県中央会と連携し、年度ごとにテーマを決めて「先進的な事業に取り組んでいる組合」の活動事例を収集し、「先進組合事例抄録」として取りまとめ、紹介する「組合資料収集加工事業」を実施しております。

本稿では、本会から取り上げた2組合を紹介します。

桐生刺繍商工業協同組合

地域産業資源である「桐生横振刺繍」の魅力発信

● 背景と目的

桐生市は大正初期に横振刺繍ミシンが導入されて以降、全国でも有数の産地として発展してきた。横振刺繍は「群馬県ふるさと伝統工芸品」に指定される等、地域の産業資源として高く評価されている。しかし、生産拠点の中国への流出等で、受注量は年々減少の一途を辿っており、組合員は桐生刺繍の技術力を広くアピールする必要性を感じていた。

● 事業・活動の内容と手法

元来、地元桐生市では毎年11月に地域住民へのPRのために「刺繍展」を開催していたが、より多くの人々に桐生刺繍の周知を図るため、東京都での展示会開催を企画。当初は地元以外での開催に一部の組合員から否定的な意見も上がっていたが、組合員の合意形成を図るべく、アンケート調査を行ったところ、約65%の組合員が開催に賛成し、過半数を超えたことから開催を決定した。

平成27年の総会時に展示会の出展希望者及び協力者22名で「東京刺繍展実行委員会」を組織し、行政や各商工団体等と連携を取りながら開催準備を行い、10月10日・11日の2日間にわたって、銀座で「東京刺繍展」を開催した。会場では刺繍作品の展示や即売に加え、「現代の名工」と「群馬県認定伝統工芸士」による横振刺繍の実演を行った。外国人を含めた来場者数は500人を超え、多くの方に桐生刺繍の魅力を発信することに成功した。更に、本展示会を契機に新たな契約を獲得した組合員も現れる等、ビジネス面でも一定の成果を上げることができた。

翌年にはデザインを学ぶ若年層に桐生の刺繍を知ってもらうとともに、桐生刺繍の次代の担い手を発掘するため、新宿の服飾系専門学校で展示会を開催。後日、展示会に参加した学生の一部が組合員企業を見学に訪れる等の動きも出始めており、後継者育成に向けた取組みも一定の成果を上げつつある。

● 成果

東京都での展示会開催によって、外国人来場者の反応から海外進出の手掛りをつかみ、更に次代を担う後進の発掘、組合員の商談の成立等、桐生での展示会では得られなかった成果を上げることができた。今後も、東京都での展示会を開催する予定であり、桐生刺繍の積極的なPRを継続して行っていく。



銀座刺繍展開催の様子



「現代の名工」による作品

住 所	群馬県桐生市永楽町6番6号	代 表 理 事	村田 欽也
電 話 番 号	0277-22-7919	U R L	http://www.shisyukumiai.com/zigyoku.php
設 立	昭和48年10月	出 資 金	1,000千円
主 な 業 種	刺繍製品の製造・販売・加工	組 合 員 数	46人

①桐生刺繍商工業協同組合
地域産業資源である「桐生横振刺繍」の魅力発信

②群馬きのこ生産協同組合
共同施設による菌床生産で生産性を向上させた群馬の椎茸栽培

群馬きのこ生産協同組合

共同施設による菌床生産で生産性を向上させた群馬の椎茸栽培

● 背景と目的

群馬県の椎茸生産高は、安価な中国産の増加や東日本大震災後の風評被害の影響で年々減少している。その結果、椎茸菌床ブロックの生産者の廃業が相次ぐなど、椎茸生産者の経営は厳しい状態が続いていた。この状況を打開するため、生産者は生産性向上を目的とした自社菌床の生産を考えるようになった。

● 事業・活動の内容と手法

そんな折、生産者の一人が国の補助金である「森林・林業再生基盤づくり交付金」を活用することで、共同生産施設の整備が可能との情報を得たことが契機となり、補助金受給に必要な要件を満たすために組合設立を決意した。第一の課題は組合員の総意形成であったが、椎茸生産者は零細事業者が多く、大規模な施設の新設には懐疑的な意見が多かった。しかし、熱意をもって共同施設の必要性を説明したことに加えて、行政や金融機関の支援も得られたことが奏功し、短期間で組合設立を実現した。

共同施設の建設は非常にタイトなスケジュールであった上に、建設業者の選定や複雑な事務処理など多くの困難もあった。しかし、キーマンのリーダーシップと素早い意思決定により、組合設立から僅か1年で共同生産施設を稼働させ、組合員に良質な菌床を供給することができるようになり、椎茸栽培の生産性は大きく向上することとなった。

今後の課題は、今回の事業で実現できた共同生産施設を維持発展させていくことである。そのためには、人材の育成を通して菌床生産のノウハウを蓄積し、従業員の技術力を向上させることが必要になる。この取組により椎茸の地元ブランド化を進めていくことが、今後も大いに期待されている。

● 成 果

平成28年4月の工場操業開始から稼働も順調に本格化している。組合員への菌床ブロックの安定供給による生産性の向上といった当初の目標は達成された。成功要因としては、キーマンのリーダーシップと意思決定の早さを挙げることが出来る。さらに行政、金融機関等の積極的な支援も大きいといえる。



作業棟及び培養棟



菌床袋詰めの様子

住 所	群馬県安中市松井田町五料3907番地の26	代 表 理 事	黛 勝江
電 話 番 号	027-393-5630	U R L	—
設 立	平成27年3月	出 資 金	1,250千円
主 な 業 種	農業	組 合 員 数	5人